

竹原市総務文教委員会

平成30年9月13日開議

会議に付する事件

(付託案件)

- 1 議案第56号 竹原市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
- 2 議案第57号 竹原市国民健康保険税条例等の一部を改正する条例案
- 3 議案第58号 竹原市地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例案
- 4 議案第61号 平成30年度竹原市一般会計補正予算(第3号)
- 5 議案第66号 平成30年度竹原市一般会計補正予算(第4号)
- 6 議案第68号 平成30年度竹原市水道事業会計補正予算(第2号)

(その他)

- 1 報告案件
 - ・郷土産業振興館における今後の取組について
- 2 閉会中継続審査の申し出について

(平成30年9月13日)

出席委員

氏 名	出 欠
山 元 経 穂	出 席
堀 越 賢 二	出 席
川 本 円	出 席
井 上 美 津 子	出 席
大 川 弘 雄	出 席
道 法 知 江	出 席
脇 本 茂 紀	出 席

委員外議員出席者

氏 名
今 田 佳 男
竹 橋 和 彦
高 重 洋 介
北 元 豊

職務のため会議に出席した者は、下記のとおりである

議会事務局長 住 田 昭 徳

議会事務局主事 森 田 愛 美

説明のため会議に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名
市 長	今 榮 敏 彦
副 市 長	田 所 一 三
教 育 長	高 田 英 弘
総 務 部 長	平 田 康 宏
企 画 振 興 部 長	桶 本 哲 也
教育委員会教育次長	中 川 隆 二
総 務 課 長	向 井 聡 司
財 政 課 長	向 井 直 毅
産 業 振 興 課 長	國 川 昭 治

午前9時58分 開会

委員長（山元経穂君） それでは、改めましてただいまの出席委員は7名であります。定足数に達しておりますので、前回に引き続き総務文教委員会を行います。

市長より発言の申し出がありましたので、これを許可いたします。

市長。

市長（今榮敏彦君） 皆さんおはようございます。

委員の皆さん、本日は総務文教委員会を開催して、まことにありがとうございます。

本委員会におきましては、付託議案につきまして慎重に御審査をいただいた上に、適切な御決定を賜りますようお願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

委員長（山元経穂君） それでは、これより一括質疑を行います。

質疑のある方は順次挙手をお願いいたします。

大川委員。

委員（大川弘雄君） それでは、一般質問で足りなかったそうですので、ちょっと濃い目にいきましょう。

まず、この間の自由討議というのがありまして、その中でも僕からも皆さんも同じ考えのようなのですが、この被害に対して全体像が実際にわかっているのかといえば、自分の町の近くのことはわかっていますけれども、山の中のことはわかっていません。そういった意味で、これは被害の全体像の表現はしていただけるのでしょうかということ。

聞くとところによると、いろんなところから陳情なのか、いろんな圧力なのか、あそこをやってくれ、ここをやってくれというのが入っているのでしょうか。復興へ向けての優先順位というものが明確に示されるべきだと思います。先の一般質問の中でも二次被害のところとか、割と表現はされたと思うのですよ。いま一度その優先順位というところで表現をお願いします。

もう一つは、一般質問のところでもたまたま僕のタイミングで出たのですが、3年間で復興の総額が60億円というのが出ました。では、単市ではどれぐらいなのか、わからないと思いますよ。ただ、激甚ですから九十何%ですよね、どう考えても。国が90以上は持ってくれるのだらうという、普通の平均的なところでしか数字はまだ出ないと思いますが、それにしても激甚ということではどれぐらいの感覚なのか。なぜかということ、それが知りたいというのは竹原市の財政負担ですよね。これから庁舎もやっていく、復興もやっ

ていく、これで本当に持つのかなというのが僕の一般質問の真意でした。不安です。復興もしないといけない。しかし、竹原市も課題がたくさんある。そういったところで、庁舎移転関係のことだけでも財政的にどうかなという思いがあったのですが、ここに来て災害がありました。被災しました。これが私の感覚では今60億円というのが出ていますけれども、畑とか山とか、手つかずのところはかなり出ると思います。もう家も建て直ししません。解体もしません。山もそのまま、畑ももうしませんというのが相当出るような気がするのですよ。その時にそのままほったらかしでその景色を残しておくのかというと、何か手当てをしないといけないのではないのかなという思いがあります。その爪跡のまま今から100年やっていくわけにいかないと思うのですよ。そういった時に、財政の負担、それが非常に重荷に感じます。でも、やらないといけない。そうした時には、長期計画をずらすとか見直すとかということが必要になってくるのではないかと思うのですが、総合的にそのあたりは市長はどのようなお考えをお持ちでしょうか。市長があと何年やるかわからないですけども、まずは3年以上は責任あるわけですから、そのあたりやはり長期ビジョンを持って、財政のことに対して考えていかないといけないと思うのですが、どのような思い、正確でなくていいですよ。今、表現できる範囲でいいのですが、是非それを教えていただいて、それからみんなでまた練り直すというか、今までどおりではいかないのではないかなと。今まで計画してきたどおりでは難しいなという思いを持っています。そのあたりはいかがですか。

委員長（山元経穂君） 総務部長。

総務部長（平田康宏君） お答えいたします。

何点か御質問いただきましたので、まず1点目の全体像ということでございますが、冒頭委員長の方からもお話ございまして、先般の第1回の委員会の後に委員の皆さんで御協議いただいたということで、おそらくそれは資料的なものも含めまして今回の災害に伴う予算も含めて全体像、被害の状況等も含めたものだと思いますので、その点は先ほど委員長からもお話ございましたように、真摯に受けとめまして、今後の資料の提供等につきましては、内容も含めまして検討してまいりたいと思っております。

御質問ありました要望等、陳情等を地元地域の方からもある中で、今回の災害に対しまして優先順位の考え方といたしましては、今回予算措置している中でも特に応急工事、本工事实施分に加えまして今月から災害の査定も実施されると、そういった見込みも含めましての予算計上というものでございます。委員の方からもお話ございましたように、二次

災害の防止も含めまして、例えば道路で申しますと、迂回路がないとかといった、そういった問題もございます。そういったことへの対応ということから順次優先順位をつけまして、査定を受けないとなかなか発注も当然できませんので、そういった査定を受けた後の発注見込み等も含めまして予算の計上をしているということでございます。さきの一般質問でお答え申しましたが、約60億円という全体ということで、あくまで見込みでございます。大川委員からもありましたように、田畑の問題とかも当然ありますので、それらも含めました上で現時点でのことでございます。

あわせまして、激甚災害につきましては、お話ございましたが、現在のところ補助率が確定しているものではございません。過去の例を見ますと、確かに8割なり9割なりは補助でもらえると思います。それに伴いまして、特別交付税というものの措置もありますが、特別交付税も一般財源でございますので、含まれた後でわかるというものでございます。

一般財源に関しましては、先に説明いたしました、今回の補正第2号、第4号によりまして、全体が33億4,789万7,000円と今回予算を計上させていただいております。このうちで起債や基金の繰り入れの総額は19億6,744万1,000円ということで現在計上しております。最終的につきましては、この額は先ほど申しましたが、激甚災害に指定されたことによりまして、補助率のかさ上げとかがまた特別交付税も配分ということで、一般財源の額は減額となる可能性もありますが、災害査定の中で補助対象外の事業も出てくる可能性も当然あります。それであわせまして、今後追加の災害復旧関連の予算の計上も見込まれるということでございますので、最終的な一般財源の持ち出しにつきましては、現時点で不明ではございます。それを踏まえまして、全体で約60億円というものの中の一般財源につきましては、現時点で当然まだお示しはできないということは御理解いただきたいと思います。

それに伴いまして、財政負担の問題でございますが、各種事業、大型事業も控える中で当然我々も持続可能な財政運営というのを再三申し上げております。ふだんの取組としての行政改革、財政改革も当然必要でございますが、こういった災害でございます。ほかの事業も委員からも話ございましたが、見直しあるいは凍結、廃止、見送りは当然考えるべきでありまして、それらを総合的に勘案いたしまして、財政運営を行ってまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） このところ日本国中、全国で災害が多いのですよね。国の予算も激甚でほかのところがないのだったらあれですけども、東北の復興もまだまだ、うちがやってどれくらい補助率が上がるのかなと思っていたらすぐ北海道でしょう。北海道も相当かかりますよ。税金を上げるのかどうかってのは国が判断することでしょうけど、国の方も余裕はないと思います。そこからいくと、その楽観的な数字が出ないのではないのかなと思うのですよね。どちらにしても、このあたりでも呉とここを比べれば、呉の方がひどかったですよ、何倍もひどい。そうすると、やはりそちらを先に作業的なものがいく、こちらは遅れるということもあって早くしないとイケないわけでしょう。そのあたりが早くしようと思うと予算的には高い金額になりますよね。そういう思いがあって聞いているのですけども。

それと、もう一件、今の予算は僕は復旧だと思っています。先ほど田畑のことも言いますけども、復旧はこれぐらいでいけるのかもしれない。賀茂川のこととか、浚渫した土砂をどこに持っていくのよとか、それは県ですからといたら、それはいいのでしょうか。それも持っていくところがなかったら、作業ができないわけですから、それらも含めて仮置き場はもういっぱいですよ、どこも。広島県内では置くところないです。それも含めて考えないとイケない予算とすると、これからは一般質問でもやりましたけども、復旧プラス改良復旧という復興ですよ、我々が普通に言う。改良していかないといけない。弱いところは補強しないとイケないではないですか。賀茂川でも国道432側はそこそこかもしれませんけど、反対側は弱いでしょう。新しい432がすぐできるのかといたら、今、松江と竹原だけが残っていますけど、松江を先にやるのかもしれないですよ。陳情もそんなに一生懸命ではないような気がしますけど。そうしたら、改良復旧、その復興という面でいくと、本川の川幅を広げたり、賀茂川の護岸を強固なものにしたりしないとイケないことがいっぱいあるではないですか。50年前のほぼ同じ日にも同じような災害が起こっているらしいです。お年寄りに聞くと、同じようなところが。そうしたら、その同じところにはもう家を建てないように、危険なところということで指定して、その方にはよそに移ってもらうというとまた予算がかかるわけでしょう。だから、その改良復興していくためには、もうこの19億円、単市よりもっともっとかかっていくと思うのですよ。そのあたりには、今度激甚の指定ではない部分の予算になってくると思うので、民間が5、市が5なのかもしれないですけども、だったらやらないと言うかもしれないです

よ。だから、そういう不安があるわけです、財政負担に対して。そこらも考えて何回も言いますけども、長期計画、竹原市が今から背負っていく負の部分を考えながら運営をしていかないといけないという、やっぱり大型事業を見直すしかないのではないですか。そのあたりが僕は必要なのではないかなという思いがあります。見直しの度合いは別として。是非その必要があると思いますので、竹原市が破綻しないようにしないといけないというところを是非考えていただきたいと思います。

それと、ちょっと順番がずれますけども、優先順位というのは、被害の全体像を見せていただいて、やっぱりここが先にやっているよねという、やらないといけないよねというところを見せていただいて、工事を始めていただいた方が、何かどこかを先にやったとか、何であそこを先にやるのかというのがあってはいけないと思うのですよ。誰もが見て理解できる順番というものをやはり示さないといけない。誰か声の大きい人が言ったから、そこは先にできたらうがって言われるのですよ、僕ら。議員は特にそうでしょう。あなたらの声が小さいから、ここはやるのが遅いんよと言われますよ。違うでしょう。僕ら災害連絡会、支援連絡会をつくって、議員全体の中でここがまずい、ここがおかしいというふうな要望と実情を上げていったわけですから、是非そういうものを使っていただいて、ここでは余り言わない方がいいかな、そういう感じで是非やっていただきたいと思います。昔は声の大きい人のところが早いというのがあったそうです。そういうのはいけないということで、我々議員は今こうやってやっているわけですから、是非そのあたりを理解していただきながら優先順位を決めていただきたいと思いますが、いかがですか。

委員長（山元経穂君） 総務部長。

総務部長（平田康宏君） 委員からお話ございました、今、全国的に災害が多発していると。本市だけではなくて、先ほどもおっしゃられましたが、北海道でも最近大きな地震があったということでございまして、国の方の予算の関係もございまして。いかに特定財源を確保していくかというのが大変な課題であるというふうに思っております。

復旧、復興に際しましても、当然相当額の予算が必要だろうというふうに考えております。委員から御紹介ありました改良復旧につきましても、それが結局災害に強いまちづくりにつながってくると思っておりますので、その点を踏まえまして事業の総点検というのを行ってまいりたい。一般質問の際に市長も御答弁申し上げたと思いますが、ロードマップ、工程表というものが中・長期の計画というのは必ず必要でございまして、これは災害復旧、復興のみならず、財政運営によりましても当然必要な計画でございまして、そ

れは十分踏まえまして策定してまいりたいと思っております。

御紹介ございました議会の方で災害支援連絡会を設けられまして、私も今回災害の際には連携をさせていただきまして、お話を伺っている中でなかなか十分な対応を私の方が最後までできませんでしたので、その点はちょっとおわび申し上げる次第でございます。災害があつてはいけませんが、いつ起こるかわかりません。次回の災害の際には、より連携をとらせていただきまして、被害状況等のこともありますので、その全体像につきましては随時お示しさせていただきながら取り組んでまいりたいと、このように思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） 最後なので、市長にお聞きしたいのですが、任期はあと3年ちょっとありますよね。そうすると、この復興が市長の任期中にあるということです。是非責任を持って、これをいいものにしていくというふうな決意が必要だと思うのですが、そのあたりはどのような表現をされますか。

委員長（山元経穂君） 市長。

市長（今榮敏彦君） 現政府も3年でいわゆる今回の災害に関わる、これは西日本だけではありませんけれども、全国的な災害に関わるいわゆる国土の強靱化をなし遂げるというふうに強く申しておられます。確かに災害は何年に一度というよりは、もう本当に毎年のように特に今年は、いろんな災害の種別ごとに何回も発生しているような状況があります。国のいわゆる省庁体制の持ち方を含めていろいろ議論されている今であります。

そういう中で、竹原市が受けた被害は、史上類いまれに見る、歴史上ない災害を被災したわけでありまして。がゆえに、なかなか対応が行き届かなかったことも確かにありますし、そのことは今後を踏まえ、種々議員からの御意見のもとに対応すべく取り組むということはお答えをさせていただいておりますけれども、特に先ほど委員の方からありました、復旧を今、国、県、そして市において進めて、これからまさに大きな予算を持って、いわゆる復興していくための事業を進めていくという、今、そういう途上にあるということだというふうに認識しています。その中でいわゆる強靱化というのは、私も国の地方機関の長の皆さん、県の関係セクションの皆さんから、本当に今までないほど言葉として述べられておられます。その中で竹原市もやはり国と県と、それから市のいわゆる公共インフラがまさに一体となった復興につながるような事業推進を図っていきたいと思います

し、政府が述べている3年間でなし遂げるということを私たちも地方公共団体それぞれ財源確保も含めて要請をしながら取り組んでまいりたいというふうには思っております。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

次に、質疑がある方は挙手をお願いいたします。

協本委員。

委員（脇本茂紀君） 今の大川委員の質問でほぼ話はつきていると思うのですが、ただそういう3年でやる強靱化の流れというのですか、そういうものがなかなかもちろん国が決めないと出ないというところもあるかもわからないけれども、竹原市として例えばさっき大川委員が言ったようにどういう優先順位で今、どの部分を評価しなくてはならないかという点についてはやっぱり問題意識というか、その強い問題意識が必要だし、それは国に財源を交渉する際にこれはもう絶対必須の課題ですから是非というふうなことを言っていかなきゃならないと思うのですよね。そういう意味で優先順位の問題もありますし、特に今回の災害の中でどういうところに焦点を当てて、いわゆるさっき言った復旧、復興をやっていくのかということがある意味では市長の所信として出して、さっき3年という話がありましたから、3年を見越しながらこういうプロセスでこの事業を完遂していくのだということの、そういうものを今すぐ出せというわけではなくて、さっき話がありましたようにこれから詳細を検討されて、いわば復旧、復興ということをやっていくわけですが、例えばこの新聞報道を見ても、予算の20億円、十何億円、それから60億円という数字が先に走るから、その全体像が見えないままに60億円の予算を組んでいるのに、一体中身は何やみたいな話にもなるのだと思いますね。だから、もちろんこれは災害復旧、復興に対してさっき話がありましたように、財源の多くは国が負担をするというのは、さっきの国土を守る、回復していく上では非常に重要なことで、その動向が多くを作用することは確かですけれども、今度は竹原市としては例えば今回のこの災害を見てどういう部分を重点的に復旧していくかあるいは復興していくかということのいわゆる指針というか、そういうものが一定に明らかになる必要があるし、また財源確保する際にもそういうところを鮮明にしていく必要がある。そういう意味で、例えば今回この問題が議事に提示される際も、そういう市のビジョンとか方向というものが出されて、それはある意味で市長のイニシアチブと思うのですけれども、そういうことをこれから具体的に多分国の財源確保をするという作業も始まり、また国の復興の施策がどういうところに重点を置いてやられるかということも詰められて、その際にそこにどういうふうなアクセスを

して、竹原市のいわば復旧、復興の流れというものをつくっていくかというなことを。だから、言いたいのは、今回何かそういう提示がないままに60億円が出たものだから、まさに新聞報道だけを読むと、それいどこで出てきたのみたいな感じ、この間の答弁で初めて聞いたみたいな話ですかね。だけど、そこらの戦略とすると、戦術というか、そういうものをやっぱり一定にイメージをしていける、これからの積み重ねを是非お願いして、とりわけ議会に是非出していただきたいと思うのですね。そういうプログラムというか、ビジョンというか、そういうことの中で審議をしていけば、例えば提言とかあるいは改良ということもやりやすくなってくるので、ちょっとビジョンがないのだけど、補正予算はとりあえず出さないといけないから、出ているし。しかし、さっき大川委員が言われた復旧、復興に向けての将来像がこれからの3年かけたその施策の中でどういうふうに推進させていくのか。もちろんこれは国や県との協議ということがありましようから、またそういうことの協議をするごとに是非議会の方にも報告いただいて、議員の皆さんの理解や協力をできる限り図りながら、議員の任務はそれが地域の隅々に行き渡るような様々な丁寧なそういうことをしていくということになると思うのですけども、そこも相互の関係を是非こういう委員会の席でしっかりやっていただきたいという思いがしました。とりわけ、この新聞報道が出て、60億円というのはいどこで言ったのだみたいな話ですよ。だから、そういう意味でももう少し細やかな、せつかく委員会というものがあるとしたら、委員会にもっとそういう資料を出していただいて、委員もそれでしっかり審議をするような土壌をつくっていただきたいということをお願いしたいと思っておりますけども、いかがでしょうか。

委員長（山元経徳君） 総務部長。

総務部長（平田康宏君） いろいろお話いただきました。いかに3年間での強靱化ということで、いかに問題意識を持つかということだと思っております。当然国ないし県の方へ強い要望は今後も引き続き行ってまいります。3年間を見通した、先ほども申し上げましたが、ロードマップというか、工程表が一番大事だと思っておりますので、どこまで資料が、当然緻密なものではありません。今回予算措置しておりますのは、各優先順位を定めておりますが、当然まだ査定もこれからという中で見込んだものでございますので、その60億円というのが先走ったようにもし捉えたのであれば、そこはおわびを申し上げるしかございませんが、我々としましては、そういったことも含めまして早く全体像をつかみたいというのは当然でございます。その中で先ほども大川委員にもお答えいたしました。

全てが全て補助対象にならないという、この分当然可能性もございますので、その点を踏まえた上でいかに特定財源を確保していくかというのが大事だと思いますので、指針ないしビジョンというものも当然必要ですので、そこは早急にしないと、今後の見通しも出せませんので、その辺は踏まえてまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） そういう意味で、災害の状況をつぶさに把握というか、掌握するということが大変重要なことです。職員の皆さん、そのために一生懸命頑張っておられると思うのですが、そういう情報をしっかり集約をした上で、特に私は災害復旧の場合はさっきお話があったように、財源の9割近くは国や県が出すものでありますから、そういうことももっと知らせておかないと、60億円ということでそれだけでみんなそんなことなんだと思ってしまう。逆に本来国土を復旧、復興する主な任務は国にあるわけですし、国の財源がなければ、地方もそれを実行することができないということであれば、やはり国からどれだけの財源を確保するか、ましてや国の施策の中でそういう財源がどういうふうにしたら確保できるか、そういう働きかけも含めて是非さっき言われたロードマップをつくって、そしてそれを議員に示しながら双方が意見を出し合いながら進めていくような手法をとっていただきたいということをお願いしたいと思いますが、いかがですか。

委員長（山元経穂君） 副市長。

副市長（田所一三君） 先ほどもありましたように、事業費がおおむね60億円ということになります。国庫補助金とか、県の補助を活用することということになるのですが、おっしゃるとおり、市単体ではおのずと限界があるということなので、そこは引き続き広島県あるいは国交省とか農林省になると思うのですが、国に直接あるいは県を通じて引き続き要望をさせていただくこととなりますので、よろしく申し上げます。

また、全体のロードマップにつきましては、この一つの指針というか、全体像を示すことによって、職員も全体の把握にもつながりますし、議員さんをはじめ住民の方にも安心感を与えることにもつながりますので、具体的な箇所については、そこでは表記することはできないかもしれませんが、例えば現在作成しております、作業中でございますけど、総合計画の中で触れたり、どういった形になるかわかりませんが、何らかの形でお示しするようにはしたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） 多分現場といいますか、職員の皆さんがそれぞれのところで接して掌握されている様々な実態、そういうものがしっかり交換されて、その施策が住民の要望や声にしっかり答えられるような状況把握というものは、ここにいる皆さん方の、要するに理事者の方の中枢の方々のある意味でその実態把握ということにかかる。もちろんそれを実際にやるのは職員の皆さんで、いろいろなところでその情報をどんどん上げてくることによってできることがあろうと思いますから、そういう機能を実際に自治体が災害対策をやってみて、そういう機能が一定強化されているところもあると思います。さらに、そのことを通じて強化していかなきゃならない点も出てくると思うのですが、そういう意味でロードマップの作成というのをあわせて、市民というか、竹原市内の様々な実情や実態というものを正確に把握をして、それでさっき話が出たような優先的にしろ、あるいは今後のお金の使い方にしろ出てくるのだらうと思うのですね。そういう協議がしっかり進むような、理事者側もそうだし、議会もそういうことにできる限り協力できるように様々な情報を収集して提示ができるように、お互いの努力をしていくことが大切だと思いますので、今後ともよろしく願いをして、私の質問を終わります。

委員長（山元経穂君） 答弁はよろしいですか。

委員（脇本茂紀君） 答弁はいいです。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） 済みません。ちょっと確認させてください。

僕の一般質問で予算が3年間60億円と聞いたのかな。3年間でどのぐらいの予算があるのかって聞いて、今、その数字がひとり歩きしているような気がするのですが、要は3年間でこの復旧に対する事業費は60億円ぐらいは必要ではないかということなのですよ。それに対してまだ予算も組んでないし、もちろん僕ら予算を通したわけではないので、今からまた減るかもしれないし増えるかもしれないけども、これぐらいは必要ではないかというのを僕が聞いたかった額はその額だったのですよね。そのぐらいは必要、国、県を含めて。単市では今のところ19億円ぐらいは要るのではないかみたいな、これは補正だからそれは組んでいるかな、それ以上は必要だということで、そういうのでいいのですよね。その60億円というのがどうも何か僕の聞き方が悪かったのか、勘違いされているのかなって思って、もう一回確認していいですか。

委員長（山元経穂君） 総務部長。

総務部長（平田康宏君） 60億円というのは、災害復旧に対する今後の見込みも含めて

この2号補正，4号補正を合計した額が約60億円です。

委員（大川弘雄君） 見込みみたいなものですか。

総務部長（平田康宏君） もちろんそうです。現時点での見込みということでお答えさせていただきますので，その点は御理解いただければ。

委員（大川弘雄君） 予算じゃないのね。

総務部長（平田康宏君） 予算を見込んだ場合がそういうことなのです。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

委員（大川弘雄君） はい。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） それでは，質疑なしと認め，本委員会の付託案件についての質疑を終結いたします。

これより順次討論，採決に入ります。

議案第56号竹原市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め，これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め，本案は原案のとおり可決されました。

続いて，議案第57号竹原市国民健康保険税条例等の一部を改正する条例案を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め，これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第58号竹原市地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例案を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め、これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第61号平成30年度竹原市一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め、これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第66号平成30年度竹原市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め、これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第68号平成30年度竹原市水道事業会計補正予算（第2号）を議題といたします。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） なしと認め、これをもって討論を終結いたします。

これより起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長（山元経穂君） 起立全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

当委員会に付託されました議案は全て議了いたしました。

この際、お諮りいたします。

ただいま議決しました本委員会への付託議案に対する委員会報告書につきましては、本日の議決結果を報告することといたします。また、本会議での委員長報告の内容につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

また、あわせて議決事件の字句等の読み間違いにつきましては、後刻委員長において調整いたしますので、御了承願います。

お疲れさまでした。

ここで説明員入れかえのため、暫時休憩いたします。

午前10時35分 休憩

午前10時37分 再開

委員長（山元経穂君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、行政報告に入ります。

郷土産業振興館における今後の取組について説明を受けます。

産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） それでは、郷土産業振興館における今後の取組について御報告をさせていただきます。

郷土産業振興館につきましては、委員の皆様には4月11日に施設の方の視察調査をいただいたところでございます。

運営につきましては、7月運営開始を目指して取り組んできたところでございますけども、災害等々がございまして、この時期になりましたが、取組について御報告をさせてい

ただきます。

まず、1の趣旨でございますけれども、こちらにつきましては、本市の農林水産物を活用した商品開発と安定供給を促進するとともに、交流体験施策を通じ、情報発信を行うため整備した郷土産業振興館について9月から運営を開始するものでございます。

今後の取組内容でございますが、加工所でございますけれども、竹原産農林水産物を原材料とした魅力ある商品開発を推進し、市内外に販路拡大を図ることにより、本市のブランド力向上と第1次生産者の所得増加につなげるものでございます。

当面の加工品等でございますけれども、農産物につきましては、タケノコ、こちらについては11キロぐらいの水煮缶を仕入れましてこちらを小分け包装したものでございます。また、海産物につきましては、海ブドウのパック詰めあるいはアナゴのグリル、その他タイ等、こちらについては冷凍でございます、こちらについてなどでございます。

その他でございますけれども、御当地グルメ用のジャガイモ加工、あるいは観光まちづくり協議会、こちらでございますが、タケノコの加工品等について加工処理してまいりたいと思っております。

次に、体験交流室でございますが、こちらにつきましては、地場産品を活用した料理教室や海ブドウの摘み取り体験、加工品の試食会等のイベントを通じまして、本市の農林水産物の認知度の向上及び利用拡大を図るとともに、この施設を拠点に、観光産業と連携した体験型観光を推進してまいります。

3番の運営体制でございますが、施設管理につきましては直営といたしまして、3名の職員体制で実施してまいります。農産物及び海産物の加工、商品開発等につきましては、業務委託で芸南漁業協同組合を予定しておりまして、現在使用等についてすり合わせをさせていただいているところでございます。

郷土産業振興館における今後の取組については以上です。よろしくお願いたします。
委員長（山元経穂君） それでは、これより質疑を行います。

質疑のある方は順次挙手をお願いいたします。

川本委員。

委員（川本 円君） ちょっとお聞きしたいのですが、2番のところの今後の取組内容の加工所のところで書いているのですが、市内外に販路拡大を図るというふうに書いていますが、この拡大を図るのは運営体系の中でいう3名の職員がやるのか、それとも業務委託先の漁協さんがやられる、これはどちらかやられるのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 販路拡大につきましては、この職員3名で対応してまいりたいと考えております。

委員長（山元経穂君） 川本委員。

委員（川本 円君） 3名が対応されると。今ある販路もあるのでしょうか、当然新たな販路を切り開いていかなければいけないと思いますが、その3名の職員がどのような手段をとりながら販路を拡大していく具体的な御予定というのがあればちょっと教えていただきたい。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まず、市内の販路等については、いわゆる道の駅とか、そういったところを予定しておりますが、市外につきましては、現在の取組といたしましては広島中央市場、ああいったところに行きましていろいろ相談させていただいたり、市場の方に取組をさせていただきましたり、あるいはこの3名の職員ではないのですが、いろいろ観光の方でも東京の方でプロモーションとか今後今やっておりますので、そういうプロモーションあるいはフードフェスティバル、ああいったものの中で加工した食品をいろいろPRするという取組をする予定とさせていただいております。

委員長（山元経穂君） 中央卸市場ですね。

産業振興課長（國川昭治君） 広島中央市場です。

委員（川本 円君） 出向くのか。

産業振興課長（國川昭治君） 今、出向いていろいろ相談させていただいております。

委員長（山元経穂君） 川本委員。

委員（川本 円君） わかりました。それと、一番肝心なところは、本来の目的として、本市のブランド力の向上と第1次生産者の所得増加につなげるということでありますよね、ここに書いている。当然9月から運営開始されてすぐさまこれにつながるとは到底思えないですね。結果が出るものではないと思います。そこでお聞きしたいのは、まず商品開発を新たにして、さっき言った販路を拡大して、ブランド力が向上して、なおかつ物が売れて、初めて所得増加につながりますよね。計画の上では、大体所得増加といわれるのはいつごろ予定されている設定をしているのかというのをお聞きしたい。というのは、やっぱり結構なお金も今回使って、いい建物を建てられて、施設も見させてもらいましたけど、非常にいいものができ上がっていると。是非とも私個人的にも成功して、1次産業の

生産者の方にできるだけもうけていただきたいなど強く思っているのですが、計画上でどういうふうな流れを見込んで動くのか、何年たっても結果が出ないというのだったらもったいなさ過ぎるので、余りにも建物がいいものですから。そういう計画があったらわかる範囲でいいのでちょっと教えていただけませんか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） いろいろ所得増加等の計画というところがございますけども、そちらにつきましても、現在、年間の例えば魚介類でございますと、水揚げ量等は一定には把握できているところなのですが、時期が集中して値段が安くなったりとかということがありまして、そのあたりについて漁協さんとどのぐらいの単価で購入し、年間を通して冷凍も出したりとかすることによって、どのぐらい所得が上がるだろうかという具体的な話を今させていただいているところでございます。そういうことで、例えばですけども、タイとかですと、夏場がよく揚がりまして、値段が非常に下がって、所得が上がらないとかという課題もございますので、それを一定の値段で買って年間を通して出荷することによりまして、漁業者の皆さんの所得も上がりますし、市の商品開発をすることによる売り上げも上がるということで、今そのあたりでどのぐらい水揚げができるかというのを、済みません、詳細を詰めさせていただいております。今年度については、今そういうことでやらせていただいているのですが、実際にそういうことで仕入れ量が決まってくると、一定に漁業者の皆さんの所得も上がってくるかと思っておりますので、それで相乗効果を迎えながら、来年度以降は一定には徐々に上がっていくようにはしたいということで、今、漁協さんといろいろ詳細を詰めさせていただいております。いつぐらいにはというのはちょっとなかなか現段階では難しいのですが、もう一定に購入額が決まれば、現在の水準よりは少しいい水準で維持していけるのではないかなと思っております。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。具体的な部分なのですが、現在、例えば夏場になりますと、旬のものは非常に安い値段で市に出まして、例えばタイとかですと。

委員（川本 円君） それはわかります。

産業振興課長（國川昭治君） ごめんなさい。

委員（川本 円君） だから、目標設定をいつごろにしているかというのがないのですか。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 済みません。まず、当面というのは、今年度につきましては、今、委員おっしゃられましたように初年度ということになりますので、なかなかフル稼働というような計画はできておりません。初年度が例えば40%、50%の稼働率でしたら、次年度以降80%とか、3年後には100%とかというような計画にはさせていただいておりますので、一定には100%稼働になりますと、何とかもちろん1次生産者の方から仕入れ量も増えてまいりますので、所得向上につながってくると思いますし、加工所自体もそれだけ取扱量が増えれば、販売額も増えてまいりますので、なかなか3年後に黒字にできるかどうかというところの試算というのは、今年度の状況によって見直しをしたいと思っておりますが、一応3年後以降に黒字になるような方向に今は計画として考えているという状況で御理解いただければと思います。

委員長（山元経穂君） 川本委員。

委員（川本 円君） ですから、3年後稼働100%と仮に設定したら、生産者の方にも少しプラスになってくるであろうという話ですよ、今の話では。

それとあわせて、課長さんも言われていたけども、やっぱり海のものとか山のものから、その時期的なものがあったり、年間を通してとれる年もあればとれない年も当然出てくるわけでありまして。そういった中で安定的に供給するためにこういった施設があるのであって、それを踏まえた上でちょっと聞かさせてもらったのですよ。大体どれぐらいを目途にして考えているのか。目標を設定しなければ、ずるずるずるずる何かの施設みたいに向に入らずにそのまま長引くのがどうも不安でならないものですね。だから、それをここでもう一回ちょっとそこらあたりのわかる範囲でいいですが、わからなかったらわからないと言ってください。お聞きしておきます。

委員長（山元経穂君） 長期リスクと長期計画の関係ですね。御答弁をお願いします。

企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 済みません。ちょっと説明がわかりにくい面があつて、申しわけありません。

運営を始めますと、やはりそこは一定に仕入れをいたしませんと加工ができませんので、先ほど課長が申しあげましたように、海産物でいきますと、芸南漁協さんとその辺の漁獲量というところですり合わせをさせていただいております、そこから幾ら仕入れをさせていただけるかというところを今、詰めさせていただいている。徐々にそういった仕入れ量が増えてきますと、その生産者の方の所得の増加にもつながってまいります。現在

は加工品としてこの郷土産業振興館の方に仕入れさせていただいていない状況から、徐々に仕入れ額を上げていきますので、徐々に生産者の方も所得増加につながってくるものというふうに思っております。将来的にはフル稼働をすれば、一定には当然今以上の所得につながるということになると思いますので、その辺のところは漁業者さんについても魚をしっかり捕っていただけるのではないかとというふうに我々も期待をしているというところでございまして、あと今おっしゃられましたように、海のもの、また農作物につきましても、天候とかに非常に影響されますので、なかなかその計画どおりにいかないということも想定されます。ですが、今現在、農家さんですとか、そういった芸南漁協さん、そういったところのヒアリングをさせていただく中で、これぐらいのものは見込めるだろう、このぐらいのものを仕入れすることはできるだろうというような見込みをもとに、3年後には何とか100%稼働に持っていきたいということで考えさせていただいておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） ちょっと違う視点から、目的がここにはないのですけども、もともとのところを言わせてください。なぜ二窓にそれをつくるのかという議員からの意見が出たと思うのです。かなり出たと思います。その時に、ここにある1次生産者のブランドというのは出たのですけども、プラス二窓地区の人口の激減対策というのもあって、場所もあいていたのでというふうな意味合いがあったような気がするのですけども、それは私の勘違いですか。農作業支援応援隊とかというのは全然考えていないのか。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） だったら、この作業場がある場所は、人口が激減している地域であります。ここに対してこういう施設をつくって、地域おこし協力隊の方々を入れるとか、そういう方向はないですか。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） まず、今の忠海東小学校の南側に適地があったというようなこともそこを選定した理由でございまして、もともと竹原市内の農作物もそうなのですが、特に海産物につきましては、加工品というものが全くない状況というのがございました。捕ったものをそのまま生鮮出荷するという状況がずっと営まれてきたということもありまして、やはり旬な時に仕入れて加工して長期保存できるような、そういう加工所というのは必要だという大きな課題であったというところもありまして、こうしたちょう

ど地方創生の交付金もいただけるというようなことになりましたので、しかも海産物はちょうど芸南漁協さんもこの近くにございますし、本所が近くにございますし、市もそこでされている。海ブドウにつきましても、そのすぐ隣で養殖施設をつくられるというような、そういった状況が重なりまして、この場を選定させていただいたということでございます。

地域おこし協力隊の方につきましては、そうした加工とか、加工品の販売といいますか、そうした1次製品のどのように加工して、どんなものを加工して、どういう方面に売ればよいかというような、そういったことにたけているような方がいらっしゃれば、是非そういった地域おこし協力隊というのも募集したいというふうには考えておりましたが、今のところ、加工の方につきましては、やはり専門といいますか、たけてらっしゃる、そういった漁協組合さんの方にそういった加工の方はお願いをして、運営の方は市で当面直営をしていこうというようなことで考えておりましたので、現在、地域おこし協力隊を募集というようなところまでは至っていないと。今後検討したいというふうに思っております。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） よくわからないですけども、それでは、この地方創生で1億9,800万円、実際には1億6,000万円を使ったわけですけども、この事業が成功したかしなかったかというのはどこで判断するのですか。将来的にはどの部分までいけば成功したということになるのですか。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） この竹原市内の農林水産物を原材料としてこういった商品を今後開発していったら、それがヒット商品になって売れるようになれば、もちろん1次生産者の所得向上につながってまいりますので、目標としては、そうした竹原市内の1次生産者、農業者、漁業者の所得向上にどれだけつながっていくかというところがやはり重要だというふうに思っております。そのことを目指して取り組んでまいりたいと思います。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） それは目標であって、どこまでいったら成果が上がったというのは決算でやりましょうか。では、この地方創生で起債が1億円でしたよね、たしか。竹原は1億円でしたよね。国が6,000万円でしたよね。そしたら、この事業に対して今の直営の時はそりゃ年間2,000万円の売り上げでもいいのでしょうか、将来的にこの

売り上げで1億円なんか返せるわけじゃないではないですか。何十年かけて事業するのですか。まずは1億円かけているということが大事なので、漁業者が年間10万円給料が上がったとあって、そこだけだったら違う方法をとればいいのでしょうか。1億円を分けてあげればいいではないですか、毎月。そうではなくって、国もトータルで2億円からするような予算のものをやっているのだから、成功しないといけません。そのためには、もっともっとやらないといけません。

1つ、海ブドウは、瑞風との契約はまだ続いているのですか。電車かな、あれ。有料というか、特別な電車があるではないですか。瑞風に乗せるとかといっていましたけど、これはまだ契約が生きていますか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まだ現在契約は生きておりますけど、残念ながら今、JRの事情により運行はされていないところでございます。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） では、それを使ってブランド化して竹原の特産として売ってくださいよ。そのためには、もっともっと大規模な事業をしてもらわないと、国も入れたら1億6,000万円だ、2億円だというところはもとをとれません。是非その方向で、そのためには今、何か軽トラックで運ぶのですとかなんとかといって、アクセス道も考えなくてはいけません。そのあたりはずっと軽トラックで運ぶつもりなのですか。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 加工所へ至る道路のことだというふうには思いますけども、確かに国道から加工所に至るまで非常に道路が狭いところがございます。今できた商品を運ぶというようなことで軽自動車を配備をさせていただいております。当面市内の仕入れを行ったりする、そういった面とか、あるいは販売する面におきましても、車については軽自動車の方が経費も安くつきますし、小回りもききますので、当面はこの軽の車を使いまして、冷凍車を使いまして運営はしていきたいというふうに思っております。ただ、道路につきましては、なかなか今すぐ拡幅するとかというようなところは非常に難しいのではないかと思いますので、この運営についてはそういったことで何とか努力していきたいというふうに思います。

委員長（山元経穂君） 大川委員。

委員（大川弘雄君） 先ほども言いましたけども、これは事業ですから、趣味ではないで

すよね。事業でやるのですから成功させないといけないのでしょう。無駄遣いになっているではないですか、今。年間2,000万円ぐらいの売り上げではだめですよ。今、しょうがないから、やる人がいないから、自前で動かさないといけないということで、この瑞風さんとの契約のこともありますからどうしてもしないといけない。ただ、これはどんどんどんどん大規模化して行って、年間5,000万円やそこらを動かして、利益は売った額とは違いますよ。2,000万円の商売をして、2,000万円収入があるわけではないのですから、その漁業者の方のこともあるのでしょうかでも、そこもちろん収入が増えるのもいいですけども、我々としても竹原市の財政のことでもあるのですから、是非ちょっとでも大型化を早くできるようにしないとけない。そのためには、大体こんなものをつくる時には、どういうアクセスなんかを先にすることでしょう。ある道を使って、そこを通る車でやればいいのですという方がおかしいので、2億円も使うような工場を建てるのに道がないのはおかしいのですよ。だから、その順番が違うので、是非その大規模化を目指して頑張ってくださいと思います。いかがですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 大川委員の御指摘のとおり、あそこの施設については、約1億8,000万円ぐらいの投資をさせていただいたかと思います。この施設の目的でありますように、農林水産物の商品開発、あるいは安定供給を促進するとともに、体験交流施設を通じまして情報発信することによりまして、まずは市の認知度を上げていこうという目的が1点ございます。また、商品開発によりまして商品の高付加価値化によりまして、また販路拡大をつなげていきたいということで、大きな目的としては2つございまして、それによりまして地域発展というのを目標と掲げているところでございます。

まず、商品開発につきましては、いろいろ市、その他バイヤーの方と相談しながら、まずいいものをつくって、売り上げの増につなげていきたいと考えております。また、それによりまして、市の認知度向上を図りまして、2次的に……。

委員長（山元経穂君） 先ほどからの答弁とまじっているところがありますので、簡潔にお願いいたします。

産業振興課長（國川昭治君） 2次的には多くの人に竹原に来ていただくことによりまして、売上額プラス観光消費額増と方向につなげながら、この施設に通した部分については、より早く開始といいますか、黒字化を図るよう努めてまいります。よろしくお願いたします。

委員長（山元経穂君） 井上委員。

委員（井上美津子君） 私は、体験交流室というところの料理教室をされたり、摘み取りの体験をされたりということで、いろんなイベントをされるということでもあります。これによっては認知度を上げていくという状況だと思うのですが、先ほども言われたように観光消費額を上げていく、最終的にはそこを目的としているということだと思いますけども、宿泊というところを中心にする、やはりこの体験というのは非常に重要性を増してくるのでないかと思います。料理教室をするにしても、講師、メニュー、そういうものも細かいところまでしっかりと職員の方がやられるのか、誰がやられるのかちょっとそこら辺がわからないのですけども、そういうことを検討していただいてやっていただきたいということになるのですけども、どういうふうにお考えでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 確かに観光消費額の増という観点からは、宿泊者の増加というのは大きな狙いだと思っております。先日行いましたオープニングイベントといいますか、納涼祭でも体験交流施設を活用した料理教室とあわせて、海辺にもございますので海辺での体験も含めると滞在時間も延びますので、あそこにある立地プラス、また体験交流メニューについても様々なメニューを用意させていただきながら、滞在時間をまず延ばしていくという取組をさせていただくとともに、宿泊者の増につなげてまいりたいと考えております。今後、具体的なメニューについては、いろんな専門家の方と相談させていただきながら、まず市の方で企画してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

委員長（山元経穂君） 井上委員。

委員（井上美津子君） 市の方で企画するということですが、それをいろんなところへ周知というのですかね、していかないと皆さん来ていただけないということでもあります。その周知についてはどのようにお考えでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 当然でございますけども、市のホームページはもとより、ツイッター、フェイスブック等様々なSNSでございますけども、そういった様々な情報発信ツールを活用いたしまして積極的に情報発信してまいります。

委員長（山元経穂君） 井上委員。

委員（井上美津子君） プロモーションというところだと思いますけども、いろんなとこ

ろ、東京とか大阪とか、そういうところとか、それだけではなく、やはりSNSですからいろんなところに行くと思いますけども、皆さんそれを見て、行ってみたいというふうな内容のものにしていきたいというふうに思いますけども、そういうのはありますか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 確かに情報発信の仕方というものがあるかと思しますので、より多くの皆さんに行ってみたいなと思えるようなものを、アイデアを出しながら工夫して発信してまいりたいと思います。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） イメージが湧かないのは、例えば施設管理については直営とし、3名の職員体制でいきますというふうに書かれておりますけども、施設管理については直営で、例えばさっきから話があるようにセールスとか、販路の拡大とかはどうなりますか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。全体の施設管理も含め、まずは商品の販路拡大等については、市の3名体制の中で対応してまいります。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） この3名については、だから市の職員がやるということですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まず、施設に常駐する職員につきましては、公募しまして現在採用し、施設におりますし、残り2名はこちらの市の職員で対応させていただいております。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） イメージが湧かないのは、施設管理の職員は1名、あとの今の販路の拡大であるとか、要するに営業であるとか、そういうのも市の職員の残りの2名の方がやるのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） そういう業務につきましては3名体制で臨んでおります。職員の配置で施設管理としては1名は向こうに常駐し、2名はこちらの方で対応しております。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） その2名の人というのは、例えばこの事業が開始されると、それも

ある意味では出張をいっぱいいっぱいするような仕事をするようになるのでしょうか。要するによくわからないのは、販路の拡大にしても、そういういろんな宣伝をしたり、そういうことをすることも含めて、もっと言えば、この人たちはそういう営業マンになるわけですよ。だから、現場はもちろん生産の現場であるわけで、ここは商品開発をしたり、生産物をつくったりするのだけど、一方で販路拡大したり、営業をしたりするという仕事をだから残りの2名方がやるのか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。しっかり説明できず申しわけありません。まず、3名体制で臨んでおりますけども、専門的に従事している職員は1名、公募させていただいた職員が施設管理もあわせて主に販路拡大で営業等に対応しております。残り2名については、サポート的に通常業務と兼務をしながら対応させていただいております。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） わかりました。というのは、構想では、だからあとの2名の人は産業振興課にいて、いわば援助をするというか、サポートをするというふうな程度の考えだと理解していいですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 主が雇用した職員で、残り2名はサポート体制的に現在取り組んでおります。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） 例えば多分最初の段階がすごく必要で、例えばどういう体制を築くのかという時に、今の構想でいうと、あとの2人の人というのは、言うたら市の職員が自分のもう一方の業務があって、片手間でそれをやるというふうに聞こえます、今の話を聞く限りでは。片手間というたら言葉が悪いけれども、ほかの仕事もあるわけだから、これに専念するわけではないということになる。すると、現場にいる1人の人が業務的には全てのことをやらざるを得ないし、やるということに多分なるのだろう。その前が、いわば業務量の想定というのがそれでもできるのですよというふうに考えるのか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 現在、1名の職員は、確かに日中は施設の方でいろんな仕事を種々対応しておりますけども、必ず一度は市役所の方に参りまして、日報を出していただくとともに、その間、打ち合わせをしながら、こちらで営業とかで広島の方へ行く場

合はこちらで対応したりとか、適宜役割分担をしながら対応はさせていただいております。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） これ以上議論してもあれだけど、いや、問題は、ある意味で事業を始める時に、その事業に専念するというのを訓練することもあるわけね、職員。だから、3名の職員がせめてこの部署についた時には、この問題に関しては一定の専門的な知識なり、そういうものを獲得する。そのことによって、この事業をこれから持続的に推進していくためにこの3名体制というのが堅持されるのかどうかというの、どうもさっきみたいな話を聞くと不安で、最悪はその1人の人が残されて全てやっていただくのですよというふうな感じがするわけ、今。竹原市の人事異動やそういうもののやり方を見ていると、そんなことが往々にしてあるのは、事業を始めるということは非常に大変重要なことで、例えば3名の方が本当にこの事業を成功させるために全力を尽くすということによって、先ほど大川委員も言ったようなことが実現していくわけでしょう。その1人の人が非常に専門的で、あとの2人の人はサポートであったら、多分そういうことにはならないのではないかと。ましてや、商品開発をし、なおかつ営業をし、そして全国というか、いろんなところに販路を広げ、瑞風に代表されるような、そういうものをとってくるとか、そういうものを広げていくという仕事をするわけですから、企画会議みたいなものは頻繁に開かれて、今度はこれ、今度はこれ営業に行こうというなことが1つ。

もう一つは、漁協が実際に事業をやるわけですね、その商品開発にしろ、あるいは生産。その際、漁協は一体どれぐらいの雇用というか、この事業をやる分に対してどういうふうな雇用を考えているのか、そういうあたりはどういうふうに計画されますか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まず、体制の面でございますけども、当然市においても大きなプロジェクト事業でございますので、やはり成功させていきたいということは当然でございます。スタッフといたしましては、それを専門職として雇用したのは1名でございますけども、体制3名でございますが、竹原市においては厳しい人材、財政の中でこのプロジェクトを成功させていこうということで、2名は積極的に関わりをさせていただいておりますし、そのほかでもございますが、私も先日東京に出張しますと、タイでこういうものをつくるのですがという、その機会があるごとに販路といいますか、ニーズ調査をさせていただいております。3名の体制ではございますが、課を上げて様々な場面でそう

いう情報収集等をしながら、何とか成功に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、また企画会議ですが、毎日日報を出していただきまして、私も確認しながら随時会議を持たせていただいておりますのでしっかり成功するよう取り組んでまいります。

また、漁協の体制ですけれども、加工ラインを動かす上で終日スタッフが張りつく必要はないかと想定しております、どうしても漁協ですと朝のものが揚がってきますので、その時間に漁獲高に応じて人を配置するというような形を考えておりますので、スタッフ数は一定に多数確保しながら、常時でいいますと4名ぐらいがその加工場で短時間で作業するというようなイメージで考えておられます。あわせて、その全体を管理する責任者を1名配置していきたいということで今、すり合わせをさせていただいています。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） いずれにしても、スタッフ数というわけですけれども、事業というのはスタートの段階で、ある意味その事業をスタートさせる時に3名の方が関わるとしたら、その3名の方がこのことに関して一定の専門性を持って、後々でも対応できるような人材育成をしとかなないと次につながらない。ましてや、市の職員は配置転換があったりいろいろするものだから、例えばこの2年ほどこの仕事をやとったけど、次はどこに行くかわからないみたいなことでは、多分事業の持続性や計画性というのが確保できないからね。そういう市としての専門性をどういうふうに育成するかということは、例えば今のいろんな販路の開発にしても、あるいはいろんなところでの交渉というか、そういう話し合いというよりもそういう販路をつくるというの、人間関係をつくることでもあるわけだから、そういうことがすごく大事になってくる。だから、最初にそこに2名の人を配置するということは、その人たちは竹原市の職員として、少なくともこの産業振興の仕事に関してプロフェッショナルになる。後々ほかのところに行っても、そのことが助言できたり、そういうことができるような人材育成をしないといけないと思う。だから、私が片手間で言ったのは、事業を始める時に片手間でやられてはだめで、今回そこに配置をされた残りの2名の方は、その後はその専門家になって、むしろその所長になるかもわからないでしょうが、そういうことも含めて今は課長が一定にさっきお話があるような対応をされるのでしょけれども、将来はそういう人的な体制というのを築いていく端緒としてこれを位置づけて、今回この仕事に関わる2人の人が将来そのことに関しては私はよく知っているという専門よというふうに思えるような人材育成を図っていただきたいというふうに思うので、そうでないと最後は雇った1人の人に全部投げられて、あとはほかのところへ

行ってしまっただけで撤退したと、あるいは市役所の課の中におけるこの事業の位置づけというものもだんだんとしぼんでいって縮小していって、やがては人材いなくなるということにもなりかねない。そこらあたりもこれは今の課長や部長がそういう人材育成や、将来につながる第一歩としてこの仕事にこの2名の職員を配置しているのですよという、それがすごく大事なことで、それが産業振興課そのものの将来に非常に重要な役割を果たすことになるかと。だから、その1億数千万円で作った建物が本当の意味で役に立つようになるために、今回の3名体制の中でどういう人材育成をするかというあたりも含めた人員配置ということをしっかり。だから、来年になったらあいつはいないということがないよう、何年かはしっかり責任を持ってやっていただくような人員配置をお願いをしておきたいと思います。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 人材育成の御提言ありがとうございます。

今、この加工所をこれから運営するに当たって、産業振興課長を中心に課を上げてしっかり取り組もうという体制を築いております。主担当としては、今、申し上げましたように3名を直接の担当ということでさせていただいておりますが、やはりそういった販路を開拓する上で例えばバイヤーの方、そういう専門家の方を招いたり、あるいは加工のそういう専門家の方も招いたり、そういった研修もさせていただくように考えておりますので、しっかりそういった専門家の意見も聞きながら、人材育成については取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

委員長（山元経穂君） 脇本委員。

委員（脇本茂紀君） 最後に一言ですが。そうなのです、バイヤーやそういう方々を招いて研修を受けるだけではなくに、そのバイヤーやそういう人らがやっているような仕事をやれるような力をつけていくということによって、直営ということの意味が出てくるわけですよ。将来これはもう委託しないですむということでの構えでこの仕事を始めると、さっきみたいに建物はあっても、事業の持続性はなかなか進まない。こういう事業は、事業の持続性を確保するためには、要するに販路をしっかり開拓されなくてはならないし、この事業そのものもさらに拡大していくような将来の方向性が作り出されていかなくてはならない。逆に漁協の方、要するに漁業がその加工も含めて生き延びていくための、言うたら大変重要なことなのだというふうに位置づけていただいて、双方が切磋琢磨しながらこの事業を前進させていくというふうな、お互いにそういう機会を持ち合う、指

導性それを是非今おられる部長と課長には把握していただきたいとお願いしておきます。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

道法委員。

委員（道法知江君） 済みません。そもそのことをお伺いすると思うのですが、何軒ぐらい生産者がいらっしゃるのか、タケノコにしても。

あと、海産物となると、生産物のいわゆる収量はどれぐらい見越しているのか、漁獲量にしてもどのぐらい見越されているのか。それがないと、9月から運営開始ということになりますので、大体どれぐらいを見越されているのかというのをお聞きしたいと思います。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） タケノコを生産者でございますけれども、生産者については、済みません、今、数字を持ち合わせておりませんが、今回考えておりますのは、あそこの本郷のコープさんの工場で水煮缶を作成しておりますので、そちらの方から仕入れをさせていただいて小分けしたいと考えております。そちらの方へ生産者はどのぐらいか、済みません、ちょっとまた確認させていただきたいと思っております。

漁協さんの漁獲高なのですが、確かに年間でいいますと、現在で確かに20数トンぐらいだったかと思うのですが、これでどのぐらい加工所の方に回していただけるかというのが実は今、すり合わせをさせていただいているところでございます。

現在、漁獲高については、一定には市場で流通しておりますので、そちらからどのぐらいが入ってこられるかということは今、詰めさせていただいているのですが、今、漁協の役員さんとの話の中では、一定には売れるというのがわかれば、皆さん、今度漁に出る意欲が湧くので、漁獲高も上がってくるだろうからという話で今、詰めさせていただいております、済みません、実際の漁獲高は今、調整中ということをお願いしたいと思います。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） タケノコの水煮でございますけれども、現在、民間事業者さんの方で水煮缶の作成をしておられます。タケノコの原料につきましては、小吹産のタケノコと、あとは小梨産のタケノコ、これを使って水煮缶をつくっておられまして、御存じのようにタケノコはこれもやっぱり天候とか、また年によって収穫量というのがかなり差はございますので、なかなか平均してこれぐらいとれるということがなかなか出にくい

ということなのですが、そういった地元の生産者の方から買い上げて、民間の方が先ほど言いました本郷の工場の方で水煮缶をつくられて、それを仕入れて、これはかなり大きな缶になりますので、それを仕入れて小分けにして販売をしていこうというような計画で今、進めております。

委員長（山元経穂君） 道法委員。

委員（道法知江君） 済みません。やめようと思っていた。海ブドウの収量というのも全然わからないのですか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。量はまだ今つかんでおりません。

委員長（山元経穂君） 道法委員。

委員（道法知江君） 何か全くもって物がどれぐらいあるのかが全くわからないまま。でも、販路の拡大はしないといけない。職員は3名です。全然本当に見えてこないというか、これからのスタートですからよろしくお願ひしますという感じなのですけど。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。海ブドウについてでございますけども、年間で160キロということで、数量としてはあるのですけど、ちょっとこちらでも養殖段階でございますので、あくまでも見込みということでお聞きしている数字でございます。

委員長（山元経穂君） 道法委員。

委員（道法知江君） 最後にします。先ほど言ったように、課長が言われたように大きなプロジェクト事業だと、竹原市にとって。大きなプロジェクト事業なので成功しないといけない。成功するためには、スタートの段階で今お聞きして、それぞれの委員さんも何かうんってうなずくような感じではないかなと思いますので、一つ一つ明確に収量がどれぐらいでとか、月にどれぐらいでとか、漁業組合に従事されている方、またどのぐらいの量が確保できるのかとか、ここがないと最終的などれだけの収量が得られて、どれだけ販売できるのかということが全く未知数、全く見えていないという状況なのではないかなと思いますので、その辺のことについて御決意だけ伺えばいいです。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長、答弁されますか。御決意ということなので。

企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 済みません。申しわけありません。もちろん長年のこういって1次生産物を加工して販売していくというような、竹原市としての長年の課題という

ことをございますので、これを何とか我々としても解決して、そういう1次生産者の所得向上につなげる。そして、竹原市の農業、漁業、これが衰退しないようにしっかり歯どめをかけていくというようなことで、この加工所を何とか成功を導きたいというふうを考えております。精いっぱい農業者、漁業者の方とも連携しながら取り組んでまいりたいと思いますので、ひとつ御協力よろしくお願ひいたします。

委員長（山元経穂君） 副委員長。

副委員長（堀越賢二君） 手短に。先日先ほどもあったような納涼祭ですが、これのどういう状況だったのか、よかった点、悪かった点を簡潔にお願いします。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 反省という意味でございませうけども、参加者については100名ちょっとという形で報告を聞いておりますが、周知が市内全域にしっかりできなかったということで、竹原方面からも参加いただいたのですが、やはり地域の方が多かったという部分がありますので、今後はこういう企画をしますと早目早目にしっかり周知しながら多くの方に参加いただけるように取り組んでまいります。

委員長（山元経穂君） 副委員長。

副委員長（堀越賢二君） 内容についての声等はどのようなのでしょうか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 内容については、そこで加工予定の海ブドウの試食会とか、魚介類のバーベキューとかを提供させていただいたので、非常に好評だったかと思っております。体験コーナーでは、タケノコを使ったピザづくりとかを体験いただきまして、こちらについても好評だったと思います。あわせて、海のレジャーということでSUPというのですか、カヌーの上に立ってこぐようなのも連盟の皆さんに協力いただきましたので、とりわけこの海の方のレジャーも好評だったということで、全体的にはよかったかと思っております。

委員長（山元経穂君） 副委員長。

副委員長（堀越賢二君） ちなみにアンケートとかをとられましたか。

委員長（山元経穂君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） 済みません。ちょっととったと思うのですが、また確認させていただきまして、済みません、報告させて。

委員長（山元経穂君） 副委員長。

副委員長（堀越賢二君） ああいうオープニングイベントでしたので、いろんな声は吸い上げて参考にしていくということは大事だと思いますので、それは今後もお願いしたいのと。

先ほどから話を聞いていく中で見込みとか、こうしたいとかという希望的観測に立った意見というふうなのが多かったように思います。その中で、今、直営ということでこの1年間はしっかりデータよりも含めてそういうものをやっついこうといったようなことも以前から説明があって、まさに今、その段階であるというふうに思っております。とはいえ、3年目にはその黒字化を目指すといったようなことなので、もちろんできているとは思いますが、経営計画があると思います。これは短期なものではなくて、企業であれば短期、中期、長期といったようなもので、もちろんこれは経営計画の中には資金計画もあって、その達成率、レッドライン、達成率に応じての分岐点はどこなのかというところ、50%、75、100、最悪25とか、そういうことはないとは思いますが、そういったパーセンテージでどうかというのをずっと月次なり3カ月なりでして行って、ずっとそれを追っかけながら、それは課の職員がずっとデータに基づいてやればよいと思うので、できれば業務委託をする中で、経営計画の修正であったり、資金計画の修正は今度は行政の部分がやって委託先に任せるのか、それとも大きな柱を残して市がずっと管理していくのか、ちょっとそこら辺のその計画とお金の部分で教えていただきたらと思うのですが。

委員長（山元経徳君） 産業振興課長。

産業振興課長（國川昭治君） まずは、経営計画でございますけれども、現在、産業振興課におきまして、単年度、2年度で長期の3カ年ということで計画については作成をさせていただいているところでございます。

なお、漁獲高については、年々変更がありますけれども、現在、年間このぐらいの確保はしていきたいという目標の数値は、一定に整理はさせていただいているところなのですが、どうしても魚で歩どまりがどのぐらいかというのがということもあって。

副委員長（堀越賢二君） もちろん生ものであるし、そういうことも理解できますけど、それを見越した上で計画と数字、お金がないと、先ほど道法委員からもあったようにどうなっていくのかがわからないというところだと思うので、あくまで工業的な生産でないの、そこら辺は、いわば今回のような災害が起きたりとか、様々な条件によっては物すごく収量が上がった。上がれば、単価が下がる。そういう時のために冷凍であったり、加

工、保存方法というものの話が先ほど出たのですが、そうであってもある程度標準のところという数字を抑えて、それがどれくらいさばけて、さばけた時の収入がこれくらいだから事業として成り立って、3年後にはこれくらいのものがというのが大体提示をされないと、経営計画を承認するということができないのが本来の商売のやり方だと思うので、これは商売だけではなくて、雇用であったり、人口減少に歯どめをかけるといったようなところとか、様々な行政的な要素はあるとは思いますが、ずっと直営でやるわけでもない。今年は直営で管理していきますよというところで、委託をしようにも受ける人が商売として成り立たなかったら、何でカバーするかというと補助金。では、補助金はどこからとなると、いや、それは税金でしょうというふうになると、しっかりした計画と、それを進めていく実行力と、それを検証していくものというのがずっと毎月セットでいかないと、あつという間に3年たったけども、3年後、今の経営状況を数字で出してくださいという問いがあった時に、なかなかいい答えが出てこないような危惧をしておりますので、そこら辺は必ず委員会の方でも今度数字を。これは予測のものであっても仕方ないですけど、おおよそそのものはやっぱり出して、今は出せないと思うのですよね、まだ動き出す時なので。そういう準備、計画はもうできていますでしょうから、それもあわせてしっかりと示していただかないといけないと思いますので、今後の事業の推進においては、そこらも必ずセットでやっていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

委員長（山元経穂君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 今、副委員長から御指摘いただきましたように、こちらの当委員会の方に郷土産業振興館の進捗状況については、適宜報告はさせていただきたいというふうに思っております。今回4月に御視察いただいた後、なかなかちょっと報告ができなくて大変申しわけございませんでした。今回何とか運営を開始できるという見込みになりましたので、御報告をさせていただいたわけですが、まだまだ今日委員の皆様から御指摘いただいたようにまだ不十分な点が多々ございます。今後しっかりその辺も進めまして、また状況報告についてはしっかりさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

委員長（山元経穂君） 副委員長。

副委員長（堀越賢二君） 先ほどの納涼祭の方の周知といったようなところは、災害があったりして、非常に大変な中でもいろんな関係者の協力を得て、ああいうふうな形でにぎわいの創出ができたと思っていますので、さらにこれを継続というか、よりにぎやかにバ

ージョンアップして、なおかつ来場者の方が来場しやすいようなハード面の整備も含めて今後しっかりと、まさに成功事例としてこの事業が市民の皆さんにしっかりと発表というか、自慢できるような事業にしていけないといけないと思いますので、よろしく願いいたします。いいです。

委員長（山元経穂君） よろしいですか。

副委員長（堀越賢二君） はい。

委員長（山元経穂君） その他ございませんか。

済みません。委員長から一言申し上げておきたいと思います。

今、各委員からいろいろ質疑がございました。その中でまとめておおむね言ったら3点の話ではないかと思います。1つ目は職員体制の問題、2つ目は経営計画の問題、3つ目は需要供給バランス、今も副委員長の方から生産性の計画というところではないかと思います。今年は直営でやっていくということが前提になって、またデータ収集ということもあるのでしょうか、これは私たちも11月に改選を迎えるので、次年度はちょっとどうなるかわかりませんが、来年、次年度4月以降は月ごとの、今、副委員長もあつたのですが、月ごとのおおよその売り上げという数字を出して、適宜委員になるのか議員になるのか、その時の状況ではないとわからないですが、報告していただきたいと思います。その中で毎月チェックしていけば、おおよそ3年後の黒字計画へ向けてというところで皆さんでいろんな話ができるのではないかと。当然先ほどもあつた25だったらその未来の議員さんから当然批判もあつたりとか、75、100だったらよくやっているねって、125だったらもうすばらしいと、これは3年後に黒字になるのは確実だなといういろんな話が出てくると思う。この中で職員体制のこととかもいろいろあると思うのですが、端的に一番わかるのはやっぱり幾ら売れたかという数字ぐらいではないかなと思うので、今後もし次年度以降ということになれば数字を出していただきたいと思います。11月の改選後にもしまつた総務文教委員会へ入られて、また活動される議員さん、委員さんがいらつしゃつたら、このことを是非引き継いでいただきたいと思います。

以上です。

委員（大川弘雄君） 総務でやるの。

委員長（山元経穂君） 総務でしょう。議会でもいいですよ。議会かわからない。それは議会になるのか総務になるのかかわからない、先ほども申し上げた。とりあえず今日総務でこういう問題が上がつたので。

委員（大川弘雄君） あっちの委員会ではないのか。

委員長（山元経穂君） いや、違う。うちの委員会です。

委員（大川弘雄君） こっち。

委員長（山元経穂君） はい、整備ではない。ということで、その他なければ終わりたいと思いますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） では、ないようでありますので、報告を終わります。

執行部の方は退席してください。ありがとうございました。

それでは、閉会中の継続審査の申し出について協議します。

11月22日までの間、当委員会として集中的に継続審査を行わなければならない事件として、別紙のとおり議長に対し申し入れるように考えております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） 先ほど副委員長と話したのですが、今もちょっとお話ししましたが、11月に私たち秋にイベントを控えているということでありまして、特段もしこれをやりたいというようなことがなければ、もうちょっと継続審査の委員会はなしということにさせていただきたいと思いますが、もし何かあったり、例えば何か問題があったり、何かこれをどうしてもやってほしいという委員さんからの申し出があれば、これは十分に考慮してそのように進めたいと思いますが、特段それが無いということになったら、もう11月までは継続審査の委員会は開かないという方向で決めたいと思いますが、御異議ございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（山元経穂君） ありがとうございます。では、その方向でいかせていただきます。

以上で本日予定しておりました協議事項は終了いたしました。

その他委員の方から何かございますか。

どうぞ、事務局長。

議会事務局長（住田昭徳君） それでは、今日大変慎重審議お疲れさまでございました。

先ほどもありましたように、おそらくこれが最後の委員会というふうになるかと思いますが、一応形式上、閉会中の継続審査を図っていただくという形になります。た

だ、本日の審議内容を拝聴しておりますと、この災害に関する例えば全体のスケジュール表であるとか、あるいは今回の産業振興館であるもとの基本計画のスタート時点の資料そのものが多分おそらく皆さん見られていないのではないのかなということがありましたので、もしそういった資料の提供が執行部の方から要請があった場合に、では10月にその委員会を開くのか開かないのか、その辺はその時に委員長に御相談の上で皆さんに声をかけをさせていただくというスタンスでよろしいですか。

委員長（山元経穂君） はい。先ほどもそういうふうな趣旨で言わせてもらったと思うのです。何か理事者の方からあったり、また委員さんからこれをちょっと何かやってくれというようなことがあれば、十分それは考慮して開くことになるでしょう、もしそうなれば。ということは、十分承知しておりますので、各委員さんにもよろしく願っていたしたいと思います。

ほかにないようですので、以上をもって総務文教委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午前11時47分 閉会